

1. 基本情報

- (1) 国名：コンゴ民主共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：キンシャサ特別州（人口1,110万人）
- (3) 案件名：国立生物医学研究所拡充計画（Projet d'aménagement de l'Institut National de Recherches Biomédicales）
- (4) 事業の要約：本事業は国立生物医学研究所（以下「INRB」という。）の検査・研究及び研修実施のための施設及び機材を拡充することにより、熱帯感染症等の病原体の検体の同定、基礎的研究、医療従事者や研究者の育成促進を通じた感染症対策の取組強化を図り、もって同国の社会サービスへのアクセス改善に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

中部アフリカに位置する同国は、大陸第二位の広大な国土（234.5万km²、日本の約6倍）を有している。周辺9か国と国境を接することから、同国の平和や安定は地域に多大な影響を与えてきた。また高温多湿の気候から、エボラ出血熱を含む熱帯感染症の発生・流行国となってきた。

保健分野においては、脆弱な保健システムや限られたサービスデリバリー能力といった課題を抱えており、低い保健指標にも表れているほか、過去7回にわたってエボラ出血熱の流行を経験している。こうした背景のもと、同国政府は国家保健計画（PNDS、2011～15年）を策定し、「全国民への質の高い基本医療サービスの提供」を目標とし、中でもエボラ出血熱をはじめ、結核、マラリア、HIV/エイズ等の感染症対策は最重要課題に位置付けられている。

同国では、感染症対策を担う唯一の中央機関として、INRBが1984年に設立され、①優先疾患に関する各種生物医学的研究、②地域的・世界的に発生する疾病に対する検査手順の標準化やグッドプラクティスに関するリファラルセンターとしての同国の検査機関ネットワークの統括、③研究者・技術者に対する研修の実施、④国内外の大学との連携による若い国内研究者の修士/博士課程における研究の支援等の役割を担っている。

INRBには国際的なネットワークを有する中核的研究者が所属し、多剤耐性結核、ウィルス性出血熱の検査、診断、基礎的研究を実施している。また、長崎大学熱帯医学研究所やガーナ野口記念医学研究所とも共同研究の実績を有し、2015年5月にはエボラ研究の功績からINRB所長がフランスの医学賞を受賞するなど、国際的な研究機関として高く評価されている。

しかし、INRBでは細胞培養・増殖を伴う診断及び研究に必要な施設・機材並びに研修施設が不足しており、検体の同定、基礎的研究、医療従事者や研究者の育成に支障を来している。今後、国際的な感染症対策を講じる上で、必要な施設・機材を整備することにより、病原体を安全、迅速かつ正確に扱うことのできる機能を

INRB に具備させることは喫緊の課題である。

(2) 保健セクターに対する我が国の協力量針等と本事業の位置付け

本事業は我が国の「国際保健外交戦略」及び新戦略「平和と健康のための基本方針」に合致するものであり、また国別援助方針（2012年12月）における重点分野「社会サービスへのアクセス改善」に資するものである。

(3) 他の援助機関の対応

フランスは1984年にINRB設立を支援。WHO、国連児童基金、グローバルファンド等が機材や消耗品を提供している。加えてベルギーもINRBの組織財務強化の支援を実施しているが、本事業との重複は見込まれない。

(4) 本事業を実施する意義

本事業は同国の国家開発計画及び我が国の国別援助方針に整合しており、事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。また、同国は所得階層分類のうちの「貧困国」に該当し、一人当たりGNIも430ドルと最低水準にあることから、本事業の必要性及び緊急性の観点に照らし、無償資金協力にて実施する妥当性は高い。加えて、同国におけるインパクトのみならず、「ポスト・エボラ」における国際的な感染症対策能力強化において重要な機能を果たす拠点機関への支援であり、我が国の国際保健政策にも合致する。さらに検査、診断技術の向上と研究機能強化を通じてWHO国際保健規則（IHR）履行強化にも貢献するなど、国際アジェンダにおける意義も非常に高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業はINRBの検査・研究及び研修実施のための施設及び機材を拡充することにより、熱帯感染症等の病原体の検体の同定、基礎的研究、医療従事者や研究者の育成促進を通じた感染症対策の取組強化を図り、もって同国の社会サービスへのアクセス改善に寄与するもの。

② 事業内容

i. 施設・機材等の内容

【施設】改修/拡充：研究・検査棟（検査室及び研究室（細菌学・ウイルス学・動物疫学）、遠隔医療室）、新設：研修棟（研究室4室、講義室4室、多目的ホール、図書室）、食堂・厨房棟建設

【機材】研究・検査用機材（シークエンサー、エライザ測定装置、サーマルサイクラー）、研修用機材、検体保管用機材（-80℃急速冷凍設備、-20℃冷凍設備、冷蔵庫）、滅菌及び廃棄物処理用機材（高圧滅菌器、焼却炉）、動物実験用施設、非常用発電機

ii. コンサルティングサービス、ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、施工管理、施設・機材の適切な運用及び維持管理のための研修

iii. 調達・施工方法：協力準備調査にて確認する。

③ 他のJICA事業との関係

個別専門家「保健アドバイザー」が2008年から公共保健省に派遣されており、

2013年のエボラ流行以降、同専門家が INRB と連携して同国及び中西部アフリカ地域周辺国において感染症のサーベイランスシステム構築・強化支援を実施中。また、無償資金協力「キンシャサ保健人材センター整備計画」（2011年）において、中級保健人材の養成学校を建設し、運営を開始しており、本事業で拡張・整備した施設により育成された研究者が、将来的にサーベイランス等に関する教育を同センターの学生に実施することが想定される。

(2) 事業実施体制

- ① 事業実施機関／実施体制：国立生物医学研究所 (Institut National de Recherches Biomédicales)
- ② 他機関との連携・役割分担：ベルギーが INRB の組織財務機能強化を支援しており、運営維持管理における連携を検討する。
- ③ 運営／維持管理体制：INRB は 10 名の博士号取得研究者を含め 150 名以上の常駐スタッフを有する。現状の施設運営・維持管理上、予算確保、供与された機材の維持管理状況も良好。本事業により整備される施設、機材の運営/維持管理体制、廃棄物等の処理体制及び非常時における安全性確保の体制については協力準備調査にて確認する。

(3) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類 A B C FI
 - ② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる影響を及ぼしやすいセクター・特性及び影響を受けやすい地域に該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断されるため。
- (4) 横断的事項：国外機関との共同研究を通じ、中西部及び南部アフリカにおける感染症対策の強化への貢献が期待される。
- (5) ジェンダー分類：ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件
- (6) その他特記事項：INRB は、過去5年間で計776人の研修受け入れ実績がある。

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

同国での無償資金協力「キンシャサ保健人材センター整備計画」（2011年）においては、完工後、運営に係る国家予算の確保や所要人員の配置が当初計画どおり行われず、結果として開校が遅延したことが指摘されている。本事業は既に稼働している INRB の機能強化を行うものであるが、追加的な運営要員及び予算確保措置が必ず実施されるよう、保健省、実施機関に申し入れる。

また、ザンビア (SATREPS) 「結核及びトリパノソーマ症の診断法と治療薬開発プロジェクト」（2009年）において BSL-3 ラボが導入されているが、施設の維持管理及び安全な運用のために実施した、担当スタッフの安全キャビネット保守管理に関する研修（米国）派遣や、検査施設利用者に対するバイオセーフティ研修が、同施設の安全な運用に寄与したとされている。本事業においては、設置する検査施設のレベルを調査で見極めるとともに、ソフトコンポーネントにて施設の十分な活用と、安全な管理・運用のための研修等の実施を検討する。

以上

[別添資料] 地図

別添

別添 国立生物医学研究所拡充計画 地図



図1 プロジェクト対象サイト



図2 プロジェクト対象サイト (キンシャサ市内図)